

# 大谷貴子さんのアメリカ骨髓バンク訪問記

私(大谷貴子)は、8月に行われた世界の骨髓バンクの代表者たちが集まる会議に参加するとともに、アメリカ骨髓バンクの2施設を訪問、インタビューをしてきました。以下、その手記を掲載いたします。

会議の行われる場所、シアトルに訪れたのは8月24日でした。名古屋では残暑が厳しいと聞いていましたが、シアトルでは肌寒いほどで、長袖の服を2、3枚着込むほどでした。(日本より気温が10度くらい低いようです。それに緯度からいえば北海道・稚内とほぼ同じ位置にあります。)アメリカ骨髓バンクの責任者の一人であるDr. サリバンに外来治療室を案内



フレッドハッチソンがんセンターにて (今年8月)

していた大きかったです。日本の病院と大きく違うところは、非常に明るい雰囲気、まるで大きなホテルのロビーのような所でした。点滴をしている患者さんもあいている手を軽く上に挙げ、「ハイ！ー」と私達に声をかけて下さいました。

Dr. サリバンの説明では、骨髓移植が必要な患者さんで家族内に提供者が見つからない場合、すぐさま患者さんとその家族と話し合いを持ち、骨髓バンクに患者登録をするそうです。告知をしているからそのような話し

し合いが出来るわけで、日本のように患者に告知をしていない場合は患者自信が積極的に活動するということは不可能に近いものです。しかし、もう一つ、宗教観の違いが大きい要因になっているものと思われます。その後骨髓バンクの患者登録部門を見学してきました。

翌日、ドナー部門を紹介していただき、お話を聞いてきました。

ドナーセンターは全国に68ヶ所があり、その中でもシアトルはアメリカ最大の移植センターを近くには有していることから規模も大きいようです。本当の中枢はミネソタにあるのですが、今回はそこまで足をのばすことが出来ませんでした。いずれの部門でも感じたことは、仕事が完全に分離されており、また国や一般の方の理解が得られており、たとえば広報の仕事でも、自ら資金を出し、宣伝するのはなく、外部から、このような宣伝をさせて欲しい、と依頼

# 百万人署名 第二弾 開始

協議会では「公的骨髓バンク早期実現を求める請願書」として署名活動を始めました。これまでの請願署名同様、百万人を目標に頑張っていきたいと思えます。今回の署名はこれまで同様「公的骨髓バンク」の一日も早い実現

と、その骨髓バンクが公平にかつ円滑に運営されていくことを訴えていきます。

また同時に、現在不足している無菌病棟の増設など、骨髓移植医療体制の緊急な充実を訴えていきます。

前回、署名された方も構いません。また署名用紙はコピーでも有効ですが、足りない方は連絡下さればお送り致します。(氏名、住所は省略せず記入して下さい。お願ひします。)署名活動は

国に対する請願活動であると同時に、身の回りの方に骨髓バンクの必要性を知っていただく広報活動の意味も持っています。

ご近所の方、お友達の方に協力していただいで出来るだけ多くの方の署名を集めてくださるようお願いいたします。

尚、第一回集計を行ないます。お手持ちの署名用紙は、古い署名も合わせ、お早めに当協議会か地元運動グループにお送り下さい。二回目の集計は二月の予定です。

がかかるほどで、宣伝費には一切お金がかかっていないほどです。しかしドナー集めにはどのバンクも同じ苦労をしているようで、アメリカでも、やはり患者が前面に出て訴えをしなければならぬようです。

## 全国協議会 ニュース (仮称)

発行所  
全国骨髓バンク  
推進連絡協議会  
〒111-91  
東京都浅草郵便局内  
私書箱119号  
TEL 03-625-7307  
発行責任者  
運営委員長 宮戸征美

郵便振替口座  
東京 5-15754  
銀行口座  
太陽神戸三井銀行 新宿支店  
普通 661-5666655

署名活動に  
ご協力を!

## GIVE MARROW CREATE NEW LIFE 「骨髓バンク入門」

京都府赤十字血液センター  
佐治博夫先生、  
東京大学輸血部  
十字猛夫先生、  
同 高橋孝喜先生  
の共著として  
「骨髓バンク入門」が、株式会社あいわ出版より発行されました。この本は骨髓移植と骨髓バンクについての基礎知識、世界の骨髓バンクの状況等が平易に書かれており、

一般の方にもよく理解できるものです。

・内容  
1、骨髓バンクを理解するために  
2、世界の骨髓バンク  
3、骨髓バンクシンポジウムから  
①グレイビスの話  
②ハンセンの話  
4、ドナーハンドブック他  
5、骨髓バンク用語解説  
定価 千五百円  
(書店に注文されるか、直接出版社にお問い合わせ下さい。)

あいわ出版  
〇三二一六四一―二六三二

# 特集 各地の運動グループ

## いわき骨髄バンク推進連絡会議



私共、いわき骨髄バンク推進連絡会議は、9月7日に結成しました。まだ、ホヤホヤの連絡会議です。

陽田秀夫を代表に、市立総合警城共立病院の斎先生、移植経験者である鈴木秀明の三人を柱に、患者の家族、医療関係者十数人の小数の集まりから動き出しました。

いわき市は、人口約35万5千人、福島県と茨城県との県境の海岸沿いにあり、全国一の面積を有する市です。地元には、血液疾患治療をする専門の大病院等の研究機関や、その設備を持つ医療機関がなく、したがって骨髄移植、骨髄バンク運動に対する知識が乏し

く、その中で活動は当初、困難が予想されました。しかし地元新聞、テレビ等で取り上げて頂ける様になって、市民の皆様が骨髄バンク運動に、耳を傾けてくれる様になりました。署名活動も徐々に広がっており、県内初のシンポジウム開催(11月10日、土曜日)までに、一万人を目標に頑張っております。

11月10日のシンポジウムには、茨城県立こども病院の土田昌宏先生と、東海骨髄バンク理事の大谷貴子さんをお迎えし、市民の皆様は大いにアピールしていきたくと思っております。また、現在、私共は、署名、募金、ドナーの募集、各種団体、個人へのバンク運動の説明、患者家族からの相談などを行っています。

「やっと歩み出した!」というのが実感です。普及活動はまだまだ時間を要することでしょう。

私達、いわき骨髄バンク推進連絡会議は、将来、「市立病院に、無菌室などの設備を充実し、地元でも骨髄移植が受けられること」を最大の目標として、皆、頑張っております。

## 公的骨髄バンクを望む東京の会

旧協議会会報「翼をください」の編集長、赤沢さんの呼びかけで、本年六月三十日、発足した東京の会です。まだ、会員数は二十名足らずで、リーダーと呼べる人材はおりませんが、会員全員が役員として頑張っております。

発足して日が浅く、まだドナー希望者が多かっためか、いったい何から手をつけて行こうか、などの試行錯誤をしながらの活動です。

まずは、「骨髄移植について」、「骨髄バンクについて」の理解をより深めるため、月一回のペースで定期的に学習会を開いています。

全国協議会の運動方針とも合せ、署名、クリスマス献血キャンペーン(十二月二十二日新橋駅烏森口予定)の為に予行練習(十月中予定)、シンポジウム(来年二月予定)等を企画しています。

この場をお借りして、東京の皆様運動参加をお願い致します。

公的骨髄バンクを望む東京の会  
代表 福崎豊一  
所在地 全国協議会事務所内  
受付口座  
住友銀行  
希望ヶ丘出張所  
普通444211



定例学習会の様子 (九月二日)

## 埼玉骨髄バンク推進連絡会

埼玉骨髄バンク推進連絡会は、一九八九年三月、第一回骨髄バンク推進シンポジウムを開催し、その会場に集まった20人ほどの人々によって結成されました。

以来毎月一度、定例会を開き骨髄移植に関する勉強、他地域での活動状況の報告、埼玉骨髄バンク推進連絡会の進べき方向等を協議してあります。昨年度の運動目的は骨髄バンクの必要性を世の中の人々に理解してもらうこと(普及活動)が第一でした。署名活動はそのためにも大切で、五万人以上の署名を集めました。

今年になって厚生省の動きから「公的骨髄バンク」の実現も間近と判断しましたので、骨髄ドナーの募集に力を入れています。7月にはドナー向けの第2回シンポジウムを開催。40名ほどの意志登録をみました。

これまでの運動から、何かをして皆に訴えないことには何の前進もない、何か動いてみるものだと痛感しましたので11月には骨髄移植という言葉をはじめて聞いた人にも理解できるように市民集会を川越市で予定しております。

それでは埼玉連絡会の主だった会員をご紹介します。

会長 秋山良実(48歳)  
父親として骨髄移植を体験。今年度より会長に、ドナー

の有無で患者の運命が分かる不合理さを埋めようと努力中。

副会長 笠原慶一(41歳)  
ドナーとして骨髄移植を体験。発起人三人衆の一人。対外部門担当として会長を補佐。

事務局長 伊藤秀雄(38歳)  
発起人の一人。前会長。百人を超える会員の連絡係としておかわらわ。

運営委員 田中正美(38歳)  
全国骨髄バンク推進連絡協議会の副運営委員長として活躍中。

運営委員 斎官英美(37歳)  
財務担当。埼玉連絡会の金庫番。

運営委員 山口昭一(45歳)  
広報担当。パソコン通信で骨髄バンクを知り参加。毎月の会報作り御苦労様。

運営委員 水落由美子(?)  
元患者家族。骨髄バンクの必要性を一番感じたお母さん。

運営委員 町田孝夫(26歳)  
全国骨髄バンク推進連絡協議会事務局勤務。

会員にはこの他にも署名担当の渡辺氏、印刷物担当の腰越氏、県西部、川越地区担当の石倉さん等々、オプザーバーとしての医療関係者を含めると百人以上の大所帯になります。定例会は毎月第一土曜日、浦和で開いています。皆様の参加をお待ちしています。